

## 会 告

農業土木学会賞拡充とこれに伴う授賞規程の改正について.....82  
 農業土木学会賞拡充に伴う平成 18 年度農業土木学会賞候補の推薦の追加募集について .....82  
 平成 18 年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて .....83  
 平成 18 年度大会講演会における「企画セッション」の募集 .....89  
 第 8 回中央講習会開催について(第 2 報)  .....90  
 第 38 回中央研修会開催について(第 2 報)  .....90  
 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....91  
 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行について.....91  
 土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について.....92  
 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の  
 配布について.....92  
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....93  
 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します.....95  
 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集 .....96  
 新シリーズ「水利遺産探訪」スタート.....97  
 北海道支部講習会の開催について(第 2 報)  .....97  
 第 43 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第 3 報)  .....98  
 水土文化研究部会第 3 回研究会の開催.....99  
 水資源学シンポジウムの開催について.....99

学会記事 .....100

## 農業土木学会(本部)行事の計画

農業土木学会(本部)行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 2 月 27 日	行事企画委員会	第 8 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・ 創出とその課題	東京大学弥 生講堂	74 巻 1 号
平成 18 年 3 月 15 日	行事企画委員会 (独)農業工学研究所	第 11 回中央研究集会 	21 世紀における農村地域資源 の管理の方向(仮)	農林水産技術 会議事務局筑 波事務所	
平成 18 年 3 月 22 日	行事企画委員会	第 38 回中央研修会 	農地・農業用水等の資源保全 と新しい地域づくり	東京大学弥 生講堂	74 巻 1 号
平成 18 年 8 月 8~11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73 巻 12 号 74 巻 1 号

## 農業土木学会関連行事予定

平成 18 年 1 月 18 日	北海道支部	支部講習会 	積雪寒冷地における排水と農 道の課題(仮題)	札幌市	73 巻 12 号
平成 18 年 1 月 26, 27 日	京都支部	平成 17 年度セミナー 		京都市	73 巻 11 号
平成 18 年 1 月 31 日	関東支部	第 29 回農業土木学会関東支部地方講習 会および平成 17 年度支部研修会 	地方講習会:土地改良事業計画設 計基準設計「農道」の改定について 支部研修会:エコロード「生き 物にやさしい道づくり」	千葉市	73 巻 12 号
平成 18 年 2 月 3 日	材料施工研究部会	第 43 回シンポジウム 	土構造物における機能の診 断・損傷・復旧(仮)	神戸市	73 巻 11 号
平成 18 年 3 月	水土文化研究部会	第 3 回水土文化研究部会 	先人達の「水土の知」	農業工学研 究所	

### 第 74 巻 2 号予定

展望：日本におけるグラウンドワーク活動の歩みと今後の展開について：近藤 次郎

小特集：農村地域におけるグラウンドワーク活動

英国におけるグラウンドワークの現状：柳 秀雄

グラウンドワークによる地域再生の取組：渡辺 豊博

胆沢平野におけるグラウンドワーク活動への取り組みと課題：藤田 優他

企業が取り組むグラウンドワーク活動：松原喜久恵

### 技術リポート

北海道支部：暗渠排水の管内清掃施設の多目的利用に対する意識と利用状況：三谷 正彦他

東北支部：住民参加型直営施工による地域ぐるみの資源保全：菅原 徳蔵他

関東支部：小動物用脱出入ロープの機能向上実験：坂本 義浩

京都支部：ため池等整備事業における生態系保全工法の事例について：山本 周平

中国四国支部：愛媛県における「ふるさと水辺の生き物調査」の取組について：鎌田 浩司

九州支部：耕土流出防止対策の効果について：塩野 隆弘

小講座：アドプト制度：斉藤 泰

私のビジョン：グラウンドワークの将来性を探る：角道弘文

論文をかたる：足下の土地に秘められたメッセージ：関 勝寿

### 農業土木学会賞拡充とこれに伴う授賞規程の改正（平成17年12月20日）について

農業土木学会賞には、学術賞、奨励賞（研究奨励賞、技術奨励賞）、優秀賞（論文奨励賞、技術報告賞）、著作賞、功労賞、上野賞がありますが、学会の活性化の一環として学会賞等の表彰制度の拡充案を検討することが研究委員会で提案され、検討してきました。研究委員会の学会賞規程小委員会の作成した拡充案が第126回研究委員会、第19期第7回調査研究活動担当理事会（平成17年12月5日開催）の議を経て第194回理事会（平成17年12月

20日開催）で承認されたのでお知らせいたします。

従来の優秀賞（論文奨励賞、技術報告賞）が、優秀賞（優秀論文賞、優秀技術賞）に名称変更されました。また、新設拡充された各賞は、優秀賞（優秀技術リポート賞）、教育賞、歴史・文化賞、地域貢献賞、国際貢献賞となりました。

なお、改正された規程は、学会ホームページ（URL:<http://www.jsidre.or.jp>）に掲載しています。

### 農業土木学会賞の拡充に伴う平成18年度農業土木学会賞候補の推薦の追加募集について

農業土木学会賞の拡充に伴い、平成18年度の農業土木学会賞候補推薦の追加募集を、以下の募集要項によって行います。つきま

しては、追加募集の締切は平成18年2月末日となっておりますので、期日までに是非ご推薦いただきたいと存じます。

#### 平成18年度 農業土木学会賞新設 募集要項

賞の種別	優秀賞	教育賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞
	優秀技術リポート賞				
賞の趣旨	農業土木に関する学術または技術についての優秀な業績 農業土木に関する単独の技術リポート業績	農業土木に関する学術・技術など資質の向上に寄与したと認められる活動で、優秀な業績	農業土木に関する歴史・文化を広く紹介した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業土木に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究に関する優秀な業績
賞の対象範囲および期間	平成13年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート（ただし、平成18年度の募集は農業土木学会誌73巻4号～12月号が対象となります）	平成13年10月から平成17年9月までの業績を対象とする	平成13年10月から平成17年9月までの業績を対象とする	平成13年10月から平成17年9月までの活動を対象とする	平成13年10月から平成17年9月までの活動を対象とする
受賞候補者	会員	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員
推薦の方法	正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または農業土木技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長推薦する。推薦者は業績（コピー可）を一部提出する。（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う				
賞の決定	理事会において行う				
表彰	農業土木学会大会講演会において会長が授与する				
推薦締切	平成18年2月末日				
提出先	〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 社団法人 農業土木学会 学会賞選考委員会宛				

第 55 回（平成 18 年度）  
農業土木学会賞候補追加推薦書（様式 A 4 版）

農業土木学会 会長 殿

推薦者 正会員氏名 \_\_\_\_\_ 印（会員番号 \_\_\_\_\_）  
所 属 \_\_\_\_\_  
連 絡 先 住所 \_\_\_\_\_  
TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_

下記の通り、第 回（平成 年度）農業土木学会賞候補を推薦します。

記

1. 賞の種別（ でお囲み下さい） 優秀賞（優秀レポート賞） 教育賞 歴史・文化賞 地域貢献賞 国際貢献賞		
（フリガナ）（ _____ ）		
2. 候補者氏名	会員番号：	TEL
所属・職名	E-mail	FAX
3. 賞の表題		
4. 業績（題名，発表誌，巻号，ページ，発行年，共著者等）		
5. 推薦理由( 500 字程度，ただし功労賞の場合は教育研究，実務の実績がわかる内容で 800 字程度 )		

平成 18 年度農業土木学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請予定



平成 18 年度農業土木学会大会講演会は，平成 18 年 8 月 8 日（火），9 日（水），10 日（木）の 3 日間，宇都宮大学で開催されます。また，11 日（金）には現地研修会が行われます。この講演会で講演発表を行いたい方は，下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は，学会誌 3 月号でお知らせします。

## 1. 講演要領

- (1) **講演資格**: 口頭発表者は、本学会会員に限ります。講演申込受付の際、会員番号を確認いたします。平成18年4月入会も可とします。非会員の口頭発表は認めません。
- (2) **講演内容**: 学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**: 12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合もあります。
- (4) **講演方法**: 個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。ただし、**企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めます。**(お一人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません)  
講演発表の補助として、OHPおよび液晶プロジェクターを準備します。スライドプロジェクターやVTRなどは準備いたしません。これらの持ち込みは可能です。自前の機器を使用される場合、投稿票にその旨を記入するとともに、発表当日は進行の妨げにならないようにして下さい。なお、**本年度はポスター発表を試行いたします。口頭発表と同一の内容をポスターでも発表できるようにしますので、希望される場合、投稿票にその旨を記入してください。**
- (5) **講演時間**: 1課題 15分(発表12分、質疑3分)です。
- (6) **講演要旨集**: (2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に収録します。
- (7) **大会概要集**: 投稿票のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演の200字概要を、大会概要集に収録します。

## 2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演原稿一式の提出および申込料2,100円(消費税込み)の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料は返金いたしません。**郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。**
- (2) 投稿原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙(コピー用紙等、ただし感熱紙は不可)に印字した原稿で投稿していただきます。後述の「**4 講演原稿の書き方**」に従い、執筆して下さい。
- (3) CD ROM版講演要旨集の作成にご協力ください。CD ROM作成を容易にするため、投稿原稿のファイルをPDF形式に変換して提出してください。ファイルの提出がなかった原稿については、紙原稿を画像としてスキャンしたものをCD ROM版講演要旨集に収録します。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容のExcelファイルを、必ず提出してください。
- (5) 投稿原稿PDFファイルならびに投稿票Excelファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の口頭発表者名(姓名)としてください(例:「taikai tarou.pdf」,「taikai tarou.xls」)。これらファイルを電子メールで送る場合の宛先は、taikai@jsidre.or.jpです。メール発信の際、表題(Subject)も口頭発表者名として下さい。また、添付ファイルの大きさにご注意ください。  
これらファイルの送付を電子メールに依らない場合は、口頭発表者名を表面に記したフロッピーディスクまたはCD ROMで提出してください。
- (6) 投稿にあたっては、次の書類等を同封し、郵送の場合は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に講演要旨在中と朱書きしてご送付下さい。原稿は、汚したり、折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒(角型2号)で送付して下さい。受領はがきの表には返送先を、裏には講演題目と口頭発表者名を必ず明記して下さい。なお、はがきが同封されていない場合は、受領確認の通知はいたしません。
  - 1) 講演申込料の振替の写し
  - 2) 原稿
  - 3) 原稿コピー4部
  - 4) 投稿票
  - 5) 投稿票コピー2部
  - 6) 投稿票Excelファイル(FDまたはCD ROM, 電子メールでも可)
  - 7) CD ROM版講演要旨集用PDFファイル(FDまたはCD ROM, 電子メールでも可)**6)と7)は、一つのメディアと一緒に入っていてもかまいません。**
  - 8) 発表原稿受領はがき(官製はがき)
  - 9) 入会申込書(非会員のみ)
- (7) 締切は、平成18年3月31日(金)消印有効(遅延は不可)

(8) 申込・問合先 農業土木学会事務局大会担当(花塚)あて

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館内

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail: taikai@jsidre.or.jp

郵便振替：00160 8 47993 (加入者名：農業土木学会)

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は大会概要集に収録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい(4月入会者は不要)。
  - (2) 講演の概要は、必ず200字以内の日本語で記入して下さい。(英文不可)
  - (3) プログラム編成に使用しますので、講演者氏名、所属機関、講演題目(副題も含めて)は、必ず講演原稿と一致させて下さい。
  - (4) 講演希望部門(第1希望・第2希望)とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌87ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
  - (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は本誌88ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。
- (下の表の2段目, 3段目は, 1段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

口頭 発表者 印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1								下の段を右につづける
2								
3								
8								

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E mail	講演題目	講演題目(英文)	第1講演 希望部門	第2講演 希望部門

次ページの段を右につづける

キーワード1	キーワード2	キーワード3	写真 枚数	図 枚数	表 枚数	参考 文献 数	発表 方式	使用 機材	講演の概要 (200字以内)	アン ケート

4. 講演原稿の書き方

- (1) 原稿用紙は、A4判(横210mm, 縦297mm)の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。  
上：25mm, 下：27mm, 左：23mm, 右：25mm
- (2) 原稿は、オフセット印刷で縮写され、B5判の大きさになります。
- (3) 書式  
文字：文字は、10.5ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字(、, …、, …など)も使わないでください。  
上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1ページ目第1行と第2行に中央に寄せ、12～14ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名（連名の場合には口頭発表者名の前に 印をつける）は、第4行と第5行に中央に寄せ、10～12ポイントで和英併記して下さい。

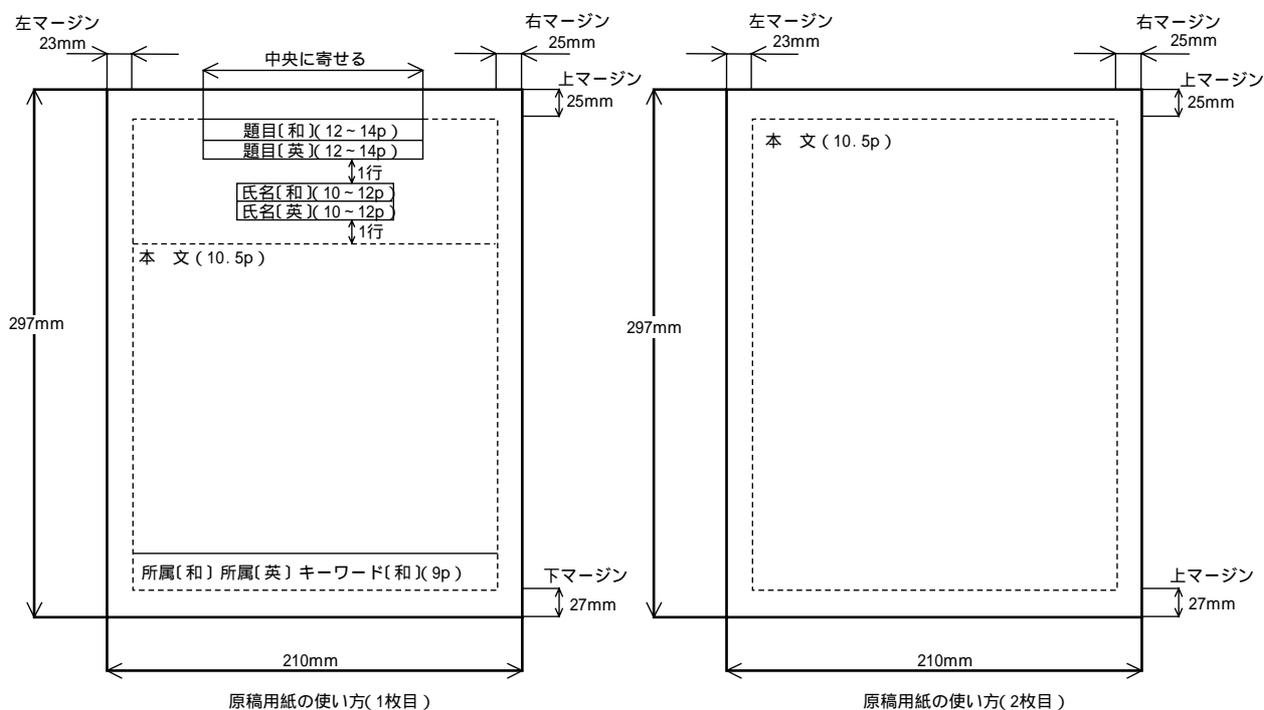
所属は、1ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に\*や\*\*を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第7行から書き始めて下さい。2ページ目は第1行から書いて下さい。

図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書込み（あるいは貼込み）、幅いっぱいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表表題にも英語を併記して下さい。

(4) その他：2枚の原稿（コピー含む）の裏面右上に、鉛筆で、口頭発表者名およびページを記入して下さい。

5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(社)農業土木学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質水文 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリ 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 情 報 処 理 ・ そ の 他
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農地景観	環境保全 環境影響評価 水質 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 緑地 親水 ビオトープ	測量・GIS リモートセンシング プログラミング手法 通信・インターネット エネルギー 電磁波・光 複雑系 新素材・新手法 新手法 水産土木 農業土木教育

(注意) 上記キーワード表は平成17年12月5日に開催しました研究委員会、大会講演会プログラム編成小委員会において改訂されておりますのでご注意ください。

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

## 平成18年度大会講演会投稿票

**1. 講演者の氏名・所属機関** (共同研究の場合は、口頭発表者に印をつけて下さい。氏名の順序は原稿と一致させて下さい。)

印	会 員 番 号	氏 名 (フリガナ) ローマ字 (姓_名)	所 属 機 関

講演者の連絡先 (住 所) 〒 \_\_\_\_\_ (TEL) \_\_\_\_\_  
 E mail \_\_\_\_\_ (FAX) \_\_\_\_\_

Excel ファイルの送付方法 同封 FD/CD ROM E mail 送信 (送信日: \_\_\_\_\_)

**2. 講演題目** (題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。)

(和文) \_\_\_\_\_

(英文) \_\_\_\_\_

**3. 講演希望部門** (第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。)

第1希望	第2希望
------	------

企画セッションでの発表の場合は「企画」と記入して下さい。

1. 水理 2. 水文・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水  
 8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 情報処理・その他

**4. キーワード** (上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。)

1	2	3
---	---	---

**5. 図表などの数**

写真の数	図枚数	表枚数	参考文献数

**6. 発表方式**

1. 口頭発表 (従来どおり) 2. 口頭およびポスター発表

**7. 口頭発表使用機材**

1. OHP 2. 液晶プロジェクター 3. その他 ( \_\_\_\_\_ )

**8. 講演の概要** (200字以内) (必ず日本語で記入して下さい。)

**9. 【アンケート】** 将来、ポスター発表が本格導入された場合、今回の投稿内容ならどの形態での発表を希望されますか

1. 口頭発表 (従来どおり) 2. ポスター発表 3. 両方

## 平成 18 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

## 研究委員会

平成 18 年度大会(8月8~10日,宇都宮大学)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は1月31日(火)です。お申込みにあたって、下記事項を学会事務局(taikai@jsidre.or.jp)まで電子メールにてお知らせください。

- 1) 企画セッションのタイプ「オープン・タイプ」、「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名、所属、連絡先電話・FAX・E mail
- 4) 企画セッションの概要(200字以内)
- 5) 発表方式
  - ・口頭発表
  - ・ポスター発表

「企画セッション」は、特定のトピックスについて、原則90分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッション、会場の聴衆を含めた討論方式、ポスター発表方式、等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低2~3名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要となります。

企画セッションのテーマには、科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介、等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを利用してください。

各研究部会の研究集會も、この企画セッションの一つとして実施して下さい。研究部会は、企画セッションの開催に向け研究集

会の内容をご検討ください。

また、類似した企画が提案された場合、また応募が多数におよんだ場合、調整をお願いすることがありますので、ご承知おき下さい。

企画セッションでの発表者は、従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし、**企画セッションでの発表は、プログラム編成上の理由から、1人1件に限ります。**各オーガナイザーは発表者選定にあたり、十分お気をつけ下さい。

なお、企画セッションとはいえ、研究発表と同等ですので、講演要旨集には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは90分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が90分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承ください。

各企画の申込料は、講演題数にかかわらず6題分(12,600円)となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切: 1月31日(火)
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡: 2月10日(金)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込は各オーガナイザーに直接): 2月10日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切: 2月24日(金)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切: 3月31日(金)

申込・問合せ先: (社) 農業土木学会大会企画セッション担当(花塚)

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail: taikai@jsidre.or.jp

**第8回中央講習会**  
**農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題（第2報）**  
**地域における新たな取組み**  
**行事企画委員会**

農業土木技術者継続教育認定プログラム



平成17年度中央講習会は、農業・農村分野の展開方向である、環境・資源・生態系の保全及び創出について、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになりうる地域の新たな取組みについて、最新の情報を報告いたします。

支部の事例報告は、

- ・農村における自然環境・生産環境・生活環境の保全・創出
- ・地域資源の多面的利用・廃棄物の再生利用
- ・景観に関する研究

事例報告後に会場と発表者全員で意見交換を行います。詳細は下記の通りです。奮ってご参加下さい。

**記**

1. **主催** 農業土木学会行事企画委員会
2. **期日** 平成18年2月27日(月) 10:00~17:00
3. **場所** 東京大学弥生講堂一条ホール  
東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)  
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

**4. プログラム**

開会挨拶

10:10~11:50 基調講演 農業・農村分野の展開方向(仮)

宇都宮大学教授 水谷 正一

13:00~13:30 講演 各支部からの報告

13:30~14:00 講演 "

14:00~14:30 講演 "

14:45~15:15 講演 "

15:15~15:45 講演 "

15:45~16:15 講演 "

16:15~16:45 意見交換

5. **定員** 150名程度

6. **参加費** 一般 4,000円

会員割引 2,000円

学生割引 1,000円

**第38回中央研修会**  
**「農地・農業用水等の資源保全と新しい地域づくり」(第2報)**  
**~ふるさとの資源の再発見~**  
**行事企画委員会**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成17年度中央研修会は、農村の資源保全と新たな地域づくりをめざす観点から、平成19年度の資源保全施策の本格導入に向けて取り組まれている現在の調査事業や、平成18年度実施予定のモデル調査等について、資源保全の現状や新たな施策の導入の必要性、具体的な保全対策などについての報告と、調査地区のなかから先進的な地区における取り組み内容と各種課題等の報告をいたします。さらに、平成18年度の予算要求などを踏まえた資源保全施策の展開方向についても報告いたします。

ふるさとの資源の再発見

耕された田圃、清らかな水、生き物、美しい景観と文化、暮らしなどふるさとの資源について

農村の資源保全施策

今後の展開について(平成18年度予算要求にみる施策の方向、資源保全実態調査事業から見た日本の農地と農業用水の現状)

農業・農村の保全計画と研究事例

物質循環等の保全計画、具体的な活動が目指す方向

農業・農村の食文化

食育について

**記**

1. **主催** 農業土木学会行事企画委員会

2. **期日** 平成18年3月22日(水) 10:00~16:30

3. **場所** 東京大学 弥生講堂一条ホール

文京区弥生1-1-1(東京大学内)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

4. **プログラム(予定)**

10:10~11:50 基調講演 著書「ふるさとの資源の再発見 農村の新しい地域づくりを目指して」より(仮)

東京大学大学院 教授 林 良博

13:00~14:00 事例報告 農林水産省農村振興局

14:00~15:00 研究所報告 (独)農業工学研究所

15:15~16:30 食育実践記より(仮)

作家・エッセイスト 森 久美子

5. **定員** 150名程度

6. 参加費 一般 5,000円  
 会員割引 3,000円

学生会員割引 1,000円

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質，  
 地質・地理， 環境， 地域(農村)計画，  
 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備，  
 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

## 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行について

### 農業土木学会行事企画委員会

### 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

#### 1. 趣旨

農業土木技術者継続教育制度(以下「機構」という。)は本格的な運用開始後4年目に入り、会員数も7,600名と増加してきています。しかしながら、業務の多忙や身近な研修機会の不足などにより、CPD単位取得ができない方が多くおられます。そして、この方々からは、在宅で手軽に参加できる方法を求める声が寄せられており、農業土木学会員等を主体に気軽に研鑽できる教育制度の創設が求められていました。

そこで、学会、機構双方に加入している方のCPD取得機会を増加させることを目的として、農業土木学会誌を活用した通信教育の実施を検討してきました、本格的な通信教育を視野に入れた試行を行います。

#### 2. 具体的な方法

##### (1) 開始時期と試行期間

学会誌に毎号問題を掲載し、メールにて回答する方法で、平成

17年10月号より開始し、6カ月間試行を行います。

##### (2) 参加会員の募集

この試行に参加を希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール(E-mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX 03 5777 2099へ返信願います。

今回の試行が成功し、本格サービスに移行するためには、多くの会員の参加が必要です。周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加を希望します。

今回は試行であることから、参加会員としての経費は不要ですが、本格運用の場合は、実費をご負担いただく方向で、検討中です。

各号ごとに、点数によって異なるCPD単位を付与し、次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される

方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

(3) 申込期限 随時受け付けます。

(4) 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

試行部会の部会長は評価委員会幹事長が当たり、部会員は経験、技術力等卓越した者を部会長が指名し、6名の体制としています。また、採点や CPD 記録の整理などは機構事務局が対応します。

(5) 試行の内容

毎号学会誌に3カ月前の学会誌の報文を主体(必要に応じて4

カ月前も活用)に事務局が作成した問題を掲載します。問題は択一式とし、毎回20問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDをが与えられ、継続教育記録として登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

(6) 試行の評価と本格サービスへの移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、必要に応じ修正を加えた上で本格サービスに移行します。

## 土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について

このたび、標記土地改良事業指針が改定され、平成18年2月に発行されることとなりました。判型、ページ数、販売価格は下記のとおりです。ご希望の方は下記までお申込み下さい。なお、改定の趣旨は、74巻2号に掲載致しますので、参照下さい。

記

### 1. 土地改良事業設計指針「ため池整備」

A4判 約230ページ

定価 3,000円(消費税内税,送料学会負担)

### 2. 申込方法

役所等で、公用として購入される場合

FAXでお申込下さい。様式は問いません。

ご希望部数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

個人、会社で購入される場合

現金書留:書籍代と書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993):振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

### 3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会事務局 担当:河合

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年12月末にはVol.3 No.4が発行予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理,水収支,灌漑施設,栽培管理)
- ② 排水(排水管理,排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良,土壌物理)

- ④ 水資源保全(水源開発,水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節,地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生,陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画,土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境,土壌環境,気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換,施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興,条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社:Springer-Verlag社(ドイツ)

発行スケジュール:2003年3月創刊,以後3カ月ごと

国際学会会費:正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは、学会HP（http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/

scope.htm）の「5 . APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering」を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末にはVol.3 No.3が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI（Science Citation Index）のIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor（13名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**なお、2006年1月1日からの投稿先が下記に変更になりますので、ご注意ください。**

**編集方針：**水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制**（2006.1.1～2008.12.31）

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)  
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors  
Prof. Dr. Sietan CHIENG  
Department of Civil Engineering, University of British Columbia, Vancouver, Canada  
Prof. Dr. Budi Indra SETIAWAN

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Mauro GREPPI

Institute of Agricultural Hydraulics, University of Milan, Milano, Italy

Prof. Dr. Shuichi HASEGAWA

Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Japan

Prof. Dr. Makoto KIMURA

Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan

Prof. Dr. Chun Gyeong YOON

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Shahid AHMAD

Natural Resources Division, Pakistan Agriculture Research Council (PARC) Islamabad, Pakistan

Dr. Huang GUANHUA

Chinese-Israeli International Center for Training in Agriculture, China Agricultural University, Beijing, P. R. China

Dr. To Phuc TUONG

Crop, Soil and Water Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI), Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Luis Santos PEREIRA

Institute of Agronomy, Technical University of Lisbon, Lisbon, Portugal

Prof. Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Meredith GIORDANO

International Water Management Institute (IWMI), Colombo, Sri Lanka

Prof. Dr. Tawatchai TINGSANCHALI

School of Civil Engineering, Asian Institute of Technology (AIT), Pathumthani, Thailand

Prof. Emeritus Dr. Kenneth K. TANJI

Department of Land, Air and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.

## • Editing Board

- Dr( Ms ) Elizabeth HUMPHREYS  
CSIRO Land and Water, Griffith, Australia.
- Mr. Aly M. SHADY  
Natural Resources Division, Canadian International Development Agency ( CIDA ) Quebec, Canada
- Mr. Brent PATERSON  
Food and Rural Development Agriculture Centre, Alberta Agriculture, Alberta, Canada
- Dr. Satyanto Krido Saptomo  
Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia
- Prof. Dr. Ettore CAPRI  
Institute of Agricultural and Environmental Chemistry, Catholic University of Holy Heart, Piacenza, Italia
- Prof. Dr. Aldo FERRERO  
Department of Agronomy, Forest and Land Management, University of Turin, Grugliasco, Italy
- Prof. Dr. Akira GOTO  
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan
- Dr. Yuji KOHGO  
National Institute for Rural Engineering ( NIRE ) Tsukuba, Japan
- Prof. Dr. Masayoshi SATOH  
Institute of Agricultural and Forestry Engineering, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan
- Prof. Dr. Kazuhiro TAKAGI  
Department of Environmental Chemistry, National Institute for Agro-Environmental Sciences ( NIAES ) Tsukuba, Japan
- Prof. Dr. Joong Dae CHOI  
Division of Agricultural Engineering, Kangwon National University, Chuncheon, Korea
- Prof. Dr. Jin Soo KIM  
Department of Rural Engineering, Chungbuk National University, Cheongju, Korea
- Dr. Song-Bae KIM  
Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea
- Ir. Dr. M. S. M. AMIN  
Department of Biological and Agricultural Engineering, University Putra Malaysia, Serdang Selangor, Malaysia
- Prof. Dr. Tahir HUSSAIN  
Faculty of Agriculture, University of Agriculture, Faisalabad, Pakistan
- Prof. Dr. Muhammad LATIF  
Centre of Excellence in Water Resources Engineering ( CEWRE ) University of Engineering and Technology, Lahore, Pakistan.
- Prof. Dr. Heping HU  
Department of Hydraulic Engineering, Tsinghua University, Beijing, P. R. China
- Prof. Dr. Jiasheng HUANG  
College of Water Resources and Hydropower Engineering, Wuhan University, Wuhan, P. R. China
- Prof. Dr. Yuanhua LI  
National Center of Irrigation and Drainage Development ( NCIDD ) Ministry of Water Resources, Beijing, P. R. China
- Dr. Jifu YANG  
Department of Irrigation and Drainage, China Institute of Water Resources and Hydropower Research ( IWHR ) Beijing, P. R. China
- Dr. ( Ms ) Kam Suan PHENG  
Social Sciences Division, International Rice Research Institute ( IRRI ) Metro Manila, Philippines
- Prof. Dr. Ming-Hsi HSU  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
- Dr. Ming-Hua TSAI  
Department of Irrigation and Engineering, Council of Agriculture Executive Yuan, Taipei, Taiwan, Rep. of China
- Prof. Emeritus Dr. Ru-Yih WANG  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
- Dr. David MOLDEN  
Irrigation and Water Resources Program, International Water Management Institute ( IWMI ) Colombo, Sri Lanka
- Mr. Jean-Luc SAUTIER  
Swiss Federal Office for Agriculture, Berne, Switzerland
- Dr. Bantha KWANYUEN  
Faculty of Engineering, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
- Dr. Varawoot VUDHIVANICH  
Faculty of Engineering Kamphaengsaen, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
- Dr. James E. HILL  
Department of Plant Science, University of California, Davis, U.S.A.

Prof. Emeritus Dr. Gilbert LEVINE  
Center for International Studies, Cornell University, Ithaca, U.S.A.

Dr. V. R. REDDY  
Alternate Crops and Systems, USDA-ARS, Beltsville, U.S.A.

Dr. Lawrence J. SCHWANKL  
Department of Land, Air, and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.

• Managing Editors  
Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG  
Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO  
Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI  
Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE  
Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)  
Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG  
Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)  
投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。  
新投稿先 : PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)  
KOFST - Main Building # 205  
635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
Tel : +82 2 562 3627 , 562 3613 Fax : +82 2 565 6821  
Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr( will be made shortly )  
( During Jan.2006 to Dec.2008 )  
投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

**農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します**

**農業土木学会誌編集委員会**

**74 巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集**

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail [henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)

**学会誌 74 巻の小特集・特別企画のテーマ**

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 ( A4 判 1 500 字以内 )	原 稿 締 切 ( 刷り上り 4 ページ厳守 )
74 巻 3 号 地域資源の保全と農業土木	公募終了	
4 号 美しい里づくり 景観法施行を背景として	公募終了	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ ( 仮 )	公募終了	平成 17 年 12 月 15 日
6 号 大会関連 関東支部 ( 仮 )	公募なし	
7 号 湿原・湿地の管理と環境保全 ( 仮 )	公募終了	平成 18 年 2 月 15 日
8 号	公募なし	
9 号 圃場整備と農業生産法人 ( 仮 )	平成 18 年 2 月 24 日	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 環境配慮とモニタリング ( 仮 )	平成 18 年 4 月 25 日	平成 18 年 6 月 15 日
12 号	公募なし	

**自主投稿原稿の募集**

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、  
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

## 74巻9号テーマ：「圃場整備と農業生産法人」(仮)

昨年3月に策定された「新たな食料・農業・農村基本計画」では、支援を担い手に集中化・重点化して望ましい農業構造を確立すること、農業の構造改革に資するは場の大区画化等の基盤整備を推進して食料供給力の確保を図ることなどが明確にされたところです。

特に、構造改革が立ち後れている水田農業においては、生産性の高い水田を確保する圃場整備を契機として担い手の育成・確保、担い手への農地の利用集積を一体的に進めることにより、地域水田農業のビジョンの実現に資することが期待されています。

「担い手」と言えば地域農業で中核的な役割を担う個別農業経営が中心となりますが、食料供給力の脆弱化や国際化の進展といった我が国農業の取り巻く情勢の変化を受け、より強靱な経営基盤を確保し得る農業生産法人や集落を基礎とした営農組織の設立など、多様な形態の担い手の育成に向けて政策支援の充実も図られているところです。

そこで、構造政策としての基盤整備のあり方についての議論を更に深めるとの観点から、今後の圃場整備のあり方及びこれを通じた農業生産法人の育成というテーマに焦点を当てた報文特集を企画することとし、かかるテーマについての研究、技術、事例紹介などを広く募集致します。

### 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む）

刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）

## 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成19年秋季～冬季用の表紙写真の募集 農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

### 記

#### 1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさにに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもあります

が、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真でご紹介ください。

#### 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

#### 3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

#### 4. 締切 平成18年3月31日(秋季～冬季の写真)

#### 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花

などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

**新シリーズ「水利遺産探訪」スタート  
皆様のご投稿を大募集中！  
農業土木学会編集委員会**

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第1弾として会員の松本（独）農業工学研究所理事が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載することとなりました。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募りたいと考えておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適応させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、幅広い会員の方に親しまれる内容のものを狙いたいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様を書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

**北海道支部講習会の開催について（第2報）**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



土地改良事業計画設計基準・計画「排水」および設計「農道」の改訂に関連して、北海道支部講習会を開催します。基準改訂の内容と、排水や農道の計画・設計に関する最近の話題について、積雪寒冷地特有の課題も踏まえながら、講師の方々より解説していただきます。

1. **テーマ**：積雪寒冷地における排水と農道の課題
2. **期 日**：平成 18 年 1 月 25 日（水）9：30～16：30
3. **会 場**：札幌市・札幌サンプラザ（札幌市北区北 24 条西 5 丁目）
4. **プログラム**：
  - 09：30 開会
  - 09：35 「土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の改訂について」  
農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室  
近藤直樹
  - 10：45 「設計基準「農道」改訂における論点と配慮事項について」

- て
- 北里大学獣医畜産学部 今井敏行
- 13：00 「寒冷地における最近の舗装設計」  
北海道開発土木研究所道路部維持管理研究室  
田高 淳
- 14：10 「土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改訂について」  
農林水産省農村振興局企画部資源課 原川忠典
- 15：20 「北海道における広域排水解析の考え方」  
株式会社ドーコン農業部 土佐久幸

16：30 閉会

5. **参加費用**：会員 3,000 円 非会員 4,000 円

6. **問い合わせ先**：

〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内  
農業土木学会北海道支部事務局  
担当：柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp  
☎011 706 3641 FAX 011 706 4145

## 第43回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第3報)

農業土木学会材料施工研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主催 農業土木学会材料施工研究部会
2. テーマ 土構造物における機能の診断・損傷・復旧
3. キーワード 土構造物, 性能設計, 機能診断, 機能損傷, 機能復旧
4. 期日 平成18年2月3日(金) 9:20~16:30
5. 会場 兵庫県中央労働センター 大ホール(210~320席)  
〒650 0011 神戸市中央区下山手通6丁目3番28  
TEL 078 341 2271 FAX 078 341 7332  
<http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/>
6. プログラム
  - ・開会式 9:20~9:30
  - ・材料施工研究部会研究奨励賞授与式 9:30~10:00
  - ・講演発表 10:00~15:15
  - 司会:三重大学生物資源学部助教授 石黒 覚  
<土構造物の機能損傷と復旧> 10:00~12:00
    - (1) 水利構造物の機能損傷と復旧  
京都大学大学院農学研究科教授 青山 咸康
    - (2) 平成16年23号台風による淡路島ため池被害と復旧(仮題)  
兵庫県淡路県民局地域振興部洲本土地改良事務所  
農村計画第二課 岡村 猛
    - (3) 平成16年23号台風による円山川水系堤防の被災事例(仮題)  
大阪大学大学院工学研究科教授 常田 賢一
    - (4) 豪雨・地震による過去のため池被害 総括と復旧, または, 福井の土砂崩壊(仮題)  
農業工学研究所造構部上席研究官 谷 茂  
<性能設計・機能診断・機能復旧> 13:15~15:15
    - (5) 土構造物の性能設計に関する動向  
地盤コード21・土構造物偏に関する動向 (仮題)  
岐阜大学工学部教授 本城 勇介
    - (6) 性能設計推進のための設計審査体制について  
清水建設土木技術本部設計部 藤田宗久
    - (7) 国営大和紀伊平野土地改良事業における農業用水路の機能診断とリフレッシュ  
大和紀伊平野農業水利事務所長 及川 和彦
    - (8) 底泥の処理(児島湖またはため池)(仮題)  
岡山大学環境理工学部助教授(保健環境センター助教授) 西村伸一
  - ・パネルディスカッション 15:30~16:30  
コーディネーター:新潟大学農学部教授 森井俊広
7. 参加費 4,000円(テキスト代) 当日受付で徴収させていただきます。
8. 申込 参加者氏名, 所属機関名, 所在地住所, TEL, FAX, E-mail, 弁当(代金¥1000)希望の有・無, をお書きの上, FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。また, 表題として, 「材料施工研究部会シンポジウムの参加」と明記して下さい。
9. 申込先 〒657 8501 神戸市灘区六甲台町1  
神戸大学農学部 気付 材料施工研究部会事務局  
申込み担当者:井上 一哉  
TEL&FAX:078 803 5853  
E-mail:mornel@kobe-u.ac.jp
10. 申込締切 平成18年1月20日(金)
11. 宿泊 各自で手配下さい。
12. 問い合わせ先 申込先と同じです。
13. その他 翌日の2月4日(土)には, 農業土木学会土地改良施設に関する性能および機能検討委員会(委員長:村上 章(岡山大学教授))による「性能設計チュートリアル」が同会場で開催されます。あわせてご参加下さい。詳しくは学会誌11月号をご参照下さい。

水土文化研究部会第3回研究会の開催

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



下記のとおり研究会を開催いたしますので、お知らせします。

記

1. 日 時 平成 18 年 2 月 24 日 ( 金 ) 13 時 30 分 ~ 17 時
2. 場 所 虎ノ門パストラル・新館 5F「ローレル」  
〒105 0001 東京都港区虎ノ門 4-1-1  
☎03 3432 7261 ( 代 )
3. テーマ 先人たちの 水土の知 もの・ひと・こころ

プログラム

講演

- 「 水土の知 とは何か 技術史の立場から」  
( 独 ) 農業工学研究所 松本精一
- 「 水土のひと・こころ」  
國學院大学 小川直之
- 「 水土の知 はおもしろい」  
( 株 ) オルタナティブコミュニケーションズ 金子照美
- パネルディスカッション  
パネラー + コーディネーター  
( 国土交通省道路局 広瀬 伸 )

4. 参加費 無料

5. 参加申込および連絡先

〒305 8609

茨城県つくば市観音台 2-1-6

( 独 ) 農業工学研究所農村計画部集落計画研究室 ( 担当 山下 )

☎029 838 7668 FAX 029 838 7609

E-mail : yamash@affrc.go.jp

6. 参加申込要領

整理の都合上、2月15日(水)までに以下の要領にてお申込み下さい。

氏名 \_\_\_\_\_ ( CPD 番号 \_\_\_\_\_ )

所属機関 \_\_\_\_\_

所在地 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

FAX 番号 \_\_\_\_\_

\* 部会員以外の方も参加できます

\* 今回は ( 社 ) 土地改良建設協会研修会との連携行事となっております

水資源学シンポジウムの開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 主 催 日本学術会議、水文・水資源学会、国土交通省
2. テーマ 世界の水問題解決に向けた日本の挑戦 ( 仮題 )
3. 期 日 平成 18 年 3 月 7 日 ( 火 )

4. 会 場 日本学術会議講堂

なお、詳細は 2 月号でお知らせいたします。